

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所、小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ふきのとう東館 第1ユニット	評価実施年月日	平成19年9月25日
評価実施構成員氏名	大内 良勝(管理者) 八田 久美子(介護支援専門員・計画作成担当者) 山口 美智子(リーダー) 高木 美幸(アシスタントリーダー)		
記録者氏名	八田 久美子	記録年月日	平成19年10月1日

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所独自の理念を作り上げ、壁に掲示し、ミーティングや会議等にて触れるようにしている。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ミーティングの中で日々のケアの中で理念に基づいた話し合いの元、援助・内容のカンファレンスが行えている。	○	理念と言う言葉を皆で浸透させて行く様、ミーティングの中で話し合っていく。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ご家族の来訪時や「ふきのとう通信」で説明すると共に、運営推進委員会の中で話し合いが行われている。	○	地域との連携が少ないため、今後ネットワークを広げて行きたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	夏祭りなどの開催を行い、地域に案内を出しいつでも参加していただける工夫をしている。	○	挨拶程度の会話のため、今後地域との接点を検討していきたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	潮まつりなど町内会の行事に職員も参加し交流に努めている。		今後も潮まつりなどの参加を継続する。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	学校行事の参加や運営推進委員会を通じ、認知症についての話し合いが持たれている。また、実習生の受入れも積極的に行っている。		実習生の受入れや、中学校の来賓などの出席などで地域との連携を図っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を行うにあたって職員に実施する意義や目的を伝え理解してもらっている。外部評価の結果を踏まえ、具体案の検討や実践につなげる努力をしている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議の議事録を作成、全職員が回覧、ミーティング・会議等でも取り上げサービス向上に活かしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村担当者、運営推進会議以外で特に行き来する機会は作っていない。	○	行き来する機会を作るよう、今後の検討課題とする。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	外部・内部研修にて、学ぶ機会を持ち検討するようにしている。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	研修会に出席しミーティング等で話し合いが行われている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は十分な説明を行い納得をしていただき入居の手続きを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情相談などケアマネージャー、担当職員が受け、その都度対応が行われている。</p>		<p>家族と直接話し合いが行われている。</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>本人の生活の様子を「ふきのとう通信」でお知らせする他、来訪時には日々の生活の状態を伝え、情報交換が行えている。また、小遣い帳などでお預り金などの報告を行っている。</p>		<p>今後も個人で購入する物品は申請書を提出し、家族に了解を得てから購入の手続きをとり混乱のない流れをとっている。</p>
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族からの意見要望はできるだけ受け入れており、家族とカンファレンスを行い、改善が見られている。 例)同性入浴、ベッド柵の活用、個人の生活様式の尊重</p>	○	<p>家族の要望、不満などを受入れ、より良い環境作りに取り組む。</p>
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>懇親会が設けられており、発言の場を設けている。また、リーダー会議や週に一度、会社役員を交えてミーティングが行われている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>勤務調整をできるだけ行い、入居者に合わせたシフトを組み入れ、夜勤者のシフトも日中帯勤務者が入るなど、入居者の把握ができる調整を行っている。</p>	○	<p>今後も入居者の状態に対応できるシフトを組み入れ、必要に応じ残業体制で調整を行っていく。</p>
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>基本的にユニットの移動は行わず、顔馴染みの職員によるケアを心掛けている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	社内外への研修の参加を全員が受けることができる体制がとられており、報告が義務づけられている。	○	年間の研修内容、参加人員の統計をとり、確実にスキルアップに努めたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	グループホーム連絡協議会の研修参加や、市内のグループホームで行われる研修会の参加などの取り組みを行っている。		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	スポーツジムの法人会員に入会しており、いつでも無料で利用できる体制が整っている。また、親睦会・ミーティングなどで忌憚のない意見を出せる場が設けられている。		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	役職に就けることでの昇給等で向上心をもって働けるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	ケアマネージャー、管理者との間で入居前に利用者のアセスメント、カンファレンスが行われている。担当ケアマネージャーからの情報を受け、十分なアセスメントが行われている。	○	入居前に利用者家族、介護職員、看護師、ケアマネージャー、管理者とのカンファレンスを行っていく。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	入居に至るまで充分な話し合いの元、家族の要望を受け止め利用に至る手続きが行われている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	十分なアセスメントの元、本人の「できること」、「できないこと」を見極め、必要な援助を行う体制がとられている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に見学やおやつを食べていただくなど、納得された上での入居となっている。また、本人の希望に合わせて外出・散歩・買い物などの対応もとられており、馴染みの家具、家族への電話等で落ち着かれるように心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	お手伝いやアドバイスをしていただき、良い関係が築かれている。諺などを教えていただき、学ぶ場がある。	○	全員の協力は得られていないため、今後もできるだけ声掛けを行っていく。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	グループホームで提供できる支援と家族の役割を話し合い、本人の支えになれるよう連携をとり援助が行われている。(来訪の少ない家族への心配りが足りない点が反省)	○	今後、家族と同伴で外出を考えたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	来訪時、情報交換を行い、より良いケアを考えていく。	○	来訪時に連携をとり、日常生活の様子を伝え家族の意向も受け入れ、より良い支援に努めて行く。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・友人の来訪 ・家族会の参加 ・電話での会話 の継続等の対応は行っている。	○	来訪のない入居者への配慮を今後も考えていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	パートナーが間に入り、良い雰囲気づくりに配慮している。リビングでの席の配慮など、和やかに過ごせるように必要に応じ移動を行っている。	○	精神状態の安定を図り、より良い方法をミーティングなどで話し合い対応していく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後、こちらから電話などの連絡は行っていない。長期入院の見舞いは行っている。	○	必要に応じ相談、支援を行っていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日、ミーティングの中で個々の特変などを話し合い、できることを検討し細かいケアを行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	フェースシートなどで個人情報を把握すると共にセンター方式の様式をとり入れできるだけ本人を理解できる様努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式、スケジュール表、モニタリングで日々の変化を把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ミーティングの中で常に状態の変化などを話し合い、申し送りノートの活用、看護師からの助言を受け、アセスメント、モニタリングを経て計画書の作成は行えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	半年に一度サービス計画書を作成し、月に一度モニタリングやカンファレンスを行い状態の変化を確認する方法で行っている。新しい課題は口頭で家族に伝えている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子は介護記録や支援経過に記録し、常にケアプランに反映できるよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	通院介助、生き生きホールの活用で柔軟に対応は行えている。	○	今後も生き生きホールの活用を考えていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアによる訪問や東小樽会館で行われた地域のイベントなどの参加を心掛けている。	○	階段、トイレなどの関係で限られた人のみ参加とならない様、場所を考えていく。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ケアマネジャー連絡協議会などに参加し、情報の収集に努めている。	○	今後、他のサービス事業者との交流会などを行い親睦を深めていきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	行っていない。	○	今後、相談していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>43 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>訪問診療、常勤看護師の勤務体制の元健康管理は行えている。</p>		<p>常に心身の状態を家族に連絡し、通院時の内容なども報告し、家族の了解の元、看護師、医師との連携を行っている。</p>
<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>44 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>協力医療機関に情報提供をし、状態の変化に対応している。</p>		
<p>○看護職との協働</p> <p>45 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>常勤看護師の元、24時間オンコール体制で入居者の体調管理が行えている。</p>		
<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>46 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>体調が安定した場合は医師の診断の元、速やかに退院しており、退院後も医師との連携は行われ、体調管理に努めている。</p>		<p>担当医と連携をとり合い、本人にとってより良い方法を話し合う場を持っている。</p>
<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>47 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>医療連携体制の元、家族に説明、同意の印をいただき、家族の意向の元、行うことで対応する。</p>	○	<p>重度化した場合は常に状態を家族に連絡し、家族の意向の元、医師と看護師の連携を行い対応していく。</p>
<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>48 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>医療連携のマニュアルに沿い、家族、医師、看護師、ケアマネージャー、介護職員と話し合いが持たれている。</p>	○	<p>本人、家族が望む支援をおこなって行く。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>自宅からグループホーム入所の際は担当ケアマネージャーと連携をとりながら、生活様式が極端に変わらないよう、細かい配慮を行っている。</p>	○	<p>他の施設や住み替えは今のところないが、入所の際は情報交換を行い、本人が不安を感じない様な対応をとっていく。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個人の尊厳を守るよう、ミーティングなどで話し合いが持たれており、個別対応でケアが行われている。個人情報もファイルなどで管理されている。</p>		<p>声掛けで居室の出入りも行われている。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>買い物など、入居者の希望する品物を選び、自分で購入する機会を作る支援をしている。</p>	○	<p>今後も回数を増やし外出の機会を多く作っていく。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>個々の趣味や家族からの情報を元に個々のライフスタイルをベースに支援している。</p>	○	<p>調理の手伝いなど希望される方には一緒をお願いするほか、イベントなども色々とり入れ個々の性格に合った楽しみを提供していきたい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>馴染みの美容室や訪問美容により個人の希望を受け対応している。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食器拭き、盛りつけ、下ごしらえなど介護者と一緒に楽しみながら行っている。</p>		<p>できることを確認しながら一緒に行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	好みの物は移動販売を利用し、自分で買い物ができるよう支援している。		週二回の移動販売を利用して、自分の食べたい物を選べる機会を設けている。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	自分の排泄の管理ができない方には時間を見てさり気ない声掛けを行い、失敗が少ない対応を心掛けている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴時間はほぼ決められた時間帯で対応している。体調に合わせて日程の調整は行われており、同性入浴希望者への対応は行っている。	○	できるだけ本人の希望に合わせた日程で調整して行いたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々のペースや体調を見ながら休息の時間が保たれており、体調の安定は保たれている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	色々なボランティアによる行事に自由に参加していただき楽しめるよう計画、実行はしているが、個々の趣味と合っているか不明。	○	カラオケ、外出、買い物など、要望に応じ対応して行きたい。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物ツアーで個別に使用している小銭などは自分で管理している。		買い物の申し出があった場合はできるだけ一緒に外出し対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	その日の勤務体制によるが概ねできている。		公園の散歩など、希望時は対応している。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	買い物や帰宅願望があった場合は個別に対応している。	○	社用車を利用しその都度対応していく。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話の対応、取り次ぎ、手紙のやりとりは自由に行える体制がとれており、実行されている。		家族への電話、葉書の使用などその都度行っている。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	常に家族の来訪はあり、自室で団らんされている。来訪の少ない入居者に対し、電話で来訪を依頼する場合もある。	○	来訪の少ない方の心のケアを図り、不穏になった場合は家族に電話して来訪をお願いしていく。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のないケアを行っている。	○	安全を心掛け見守りを行っていく。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	一般家庭と同じく、玄関の施錠はPM8:00～AM6:30		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>玄関への移動はチャイムで確認し常に見守り、安全に配慮している。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>個々の馴染みの品を置き、整理整頓の元、危険のないよう配慮している。</p>		
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>ミーティングなどでヒヤリハットのカンファレンスを行い、事故防止の心がけを行っている。</p>	○	<p>ヒヤリハットのカンファレンスや研修会で事故を防ぐ対策を取っていく。</p>
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>消防本部に依頼し、緊急時の対応の講習会を行うほか、マニュアル作成で対応できるように努めている。</p>		<p>職員全員が緊急時に対応できるよう研修を行っている。</p>
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>地域との話し合いは行われていない。</p>	○	<p>今後、地域の人達との連携を考えていく。</p>
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>個々の身体的な低下を家族に伝え、リスクが大きい場合は相談の元改善し、安全に過ごせるよう配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	常に看護師と連携がとれており、看護師から医師へ情報提供を行い指示を受け対応している。	○	24時間オンコールの元、対応していく。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	訪問診療や通院時の説明を受け、医師・看護師の指示の元、行っている。		薬の副作用については看護師に身体状況を説明し、医師の指示を仰ぐ体制をとっている。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	コンニャク入りご飯、毎日ヨーグルト、処方されている下剤で対応している他、看護師と連携をとりながら排便状態の対応は行っている。		個人の排便状態を把握し、対応している。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアは声掛けにより行っている。夜間は必ず入れ歯を外し、口腔清浄を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	全員の摂取量・水分量は把握できており、声掛けで対応している。個人の差はある。	○	水分摂取が困難になってきている場合は、果物・ゼリーの対応で支援していく。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	常に手洗い・消毒は励行しており、紙オムツ類の処理も運営指導の元、行われている。(医薬用殺菌剤や逆性石鹼を用いた消毒・殺菌)		マニュアル作成の元、励行している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	布巾、まな板、おしぼりの消毒は毎回行っており、衛生管理はできている。エプロンも食事に使い分けが行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	鉢植えの花を置き楽しめるようになっている。ベンチなど、入口でくつろげる雰囲気作りが行えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じ壁紙の掲示やCD、ビデオなどの設置で楽しめる空間が保たれている。	○	今後行事で写した写真などを掲示していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの位置、気の合う人への配慮を行いながら楽しい雰囲気作りに努力している。		本人の希望に添った場所の提供を行っている。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自分のお気に入りの物や、家族からの差し入れなどで居心地の良い場所となっている。		居心地の良い場所のため、閉じ籠もりにならない様、声掛けを行っている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	入居者の体調に合わせて換気は毎日行われており、居心地の良い温度が保たれている。		本人の希望に合わせて換気、温度調節を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>85 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>手摺りの設置や廊下に物を置かないように配慮している。</p>		
<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>86 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>指体操、切り絵、歌など、できることへの支援を行っている。</p>	○	<p>看護師の指示を受け、自分でできる体操などを行い、心身の安定を図る取り組みを行っている。</p>
<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>87 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ベランダから眺める景色は気持ちの和む風景となっている。</p>	○	<p>玄関回りの活用を考えていく。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ○ ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ○ ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ○ ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ○ ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

・水分補給、ならびに日々のバイタルチェック